

中部地方の指導にあたって ～産業を中核とした考察

●『学習指導要領解説』の抜粋

日本の諸地域について、幾つかに区分し、その地域的特色や地域の課題を理解する。次の①から⑤までの考察の仕方を基に、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、知識及び思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう指導する。

①自然環境を中核とした考察の仕方、②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方、③産業を中核とした考察の仕方、④交通や通信を中核とした考察の仕方、⑤その他の事象を中核とした考察の仕方。

③産業を中核とした考察の仕方

国内の産業動向については、日本全体で見ると、先進工業国と捉えられているが、国内を大きく区分して見ると、太平洋ベルトには工業や流通、金融、情報などに関する産業の盛んな地域、日本海側や北海道などには農業や水産業、地場産業、観光産業の盛んな地域がそれぞれ見られる。産業を中核とした考察の仕方については、地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、それをその地域の自然環境や交通・通信などに関する事象と関連付け、産業が地域の自然環境や交通・通信などと深い関係をもっていること、産業の振興と環境保全の両立などの持続可能な社会づくりが地域の課題となることなどについて考察することが考えられる。

●指導上の留意点

とうかい 東海・中央高地・ほくりく 北陸から構成される中部地方は広範囲に渡り、それぞれの地域の自然環境や産業のあり方は大きく異なる。特徴的な地域の産業を中心に自然環境や他地域との結びつきを考えさせるとともに、共通性にも着目して特色をまとめさせたい。

「中部地方をながめて」の項目では、三つの地域について、自然環境（地形、気候の両面）を中心にその特色を考えさせ、おさえておきたい。三つの地方は、古くは東海道・東山道・北陸道のそれぞれ一部をなし、それぞれが特色を持った地方であることに留意する必要がある。「自動車産業と工業地域」の項目では、中京工業地帯を中心に、日本の工業における地位や自動車産業を中心とした生産のしくみに注目する。さらに隣接する東海工業地域の特色にも留意したい。「東海地方・中央高地の第一次産業」の項目では、自然環境を生かした農産物の生産を地域の特色とともに理解させ、さらには大消費地との関係にも留意したい。「北陸地方の伝統産業」の項目では、なぜこの地域に伝統産業が根付いたのかを、農業と関連させながら考えさせたい。さらに、最先端の工業地域をもつとともに、豊かな自然環境に恵まれ、新しい観光のあり方にも力を入れている一方、特に冬期における暮らしの厳しさ、また地震・火山をはじめとする自然災害など、地域を取り巻く諸課題にもふれさせたい。

●ワークシートの単元構成 《想定する時間数:全体で5時間》

時数	単元名	学習内容	主な学習項目	ページ
1	中部地方をながめて	中部地方の位置と広がり 地形の特色、異なる気候	県名、主な山脈、主な河川 三つの地域の異なる気候、雨温図	p.74
2	自動車産業と工業地域	中京工業地帯の特色 東海工業地域	自動車工業の発展 新しい工業の発展と東海地域の工業	p.75
3	東海地方・中央高地の 第一次産業	集約的な農業生産 遠洋漁業の基地 焼津 扇状地と高原の農業	渥美半島の農業、茶・みかん栽培 日本の遠洋漁業、漁港のしくみ 果樹栽培と高原野菜	p.76
4	北陸地方の伝統産業	自然環境と歴史	伝統産業の種類	p.77
5	中部地方のまとめ	大きくとらえた中部地方	白地図上に主な地名や語句を整理する	p.78

中部地方 ①

中部地方を ながめて

●学習のねらい●

地図帳を使って、中部
地方の広がりや地域区分、
県名や山脈、川の名前など
を調べよう。

中部地方は、東海・中央高地・北陸から成り立ち、愛知県・静岡県・岐阜県・長野県・山梨県・福井県・石川県・富山県・新潟県で構成されています。昔から東海道（現在の三重県から愛知県、静岡県、山梨県、そして関東地方南部に続く）と東山道（現在の滋賀県から岐阜県、長野県、そして関東地方北部から東北地方に続く）、北陸道（現在の北陸地方）と、畿内を結ぶ通り道として、独自の歴史的発展をしてきました。

中央高地には日本アルプスとよばれる飛騨・木曽・赤石の三つの山脈が連なっています。これらの山々に降った雪や雨

は日本海と太平洋に注ぎ、中央高地の盆地、北陸地方と東海地方の平野をうるおします。また、日本海側、中央高地、太平洋側ではそれぞれ気候も異なり、産業や人々の暮らしにも影響を与えています。

濃尾平野に広がる名古屋大都市圏には多くの人口が集まり、東海地方や中京工業地帯の中心として、経済が発展する地域となっています。中央高地には高原や扇状地などで自然環境を生かした農業・工業や観光業などの産業が、北陸地方では長い冬の副業が根付き、地場産業として地域の経済を支えています。

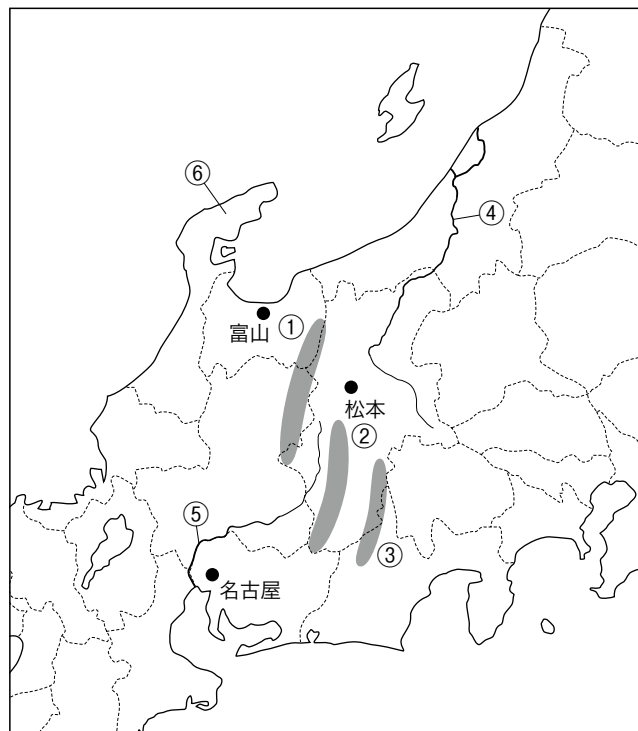
課題 1 右の地図で中部地方と、隣接する他の地方との境界線（県境）を赤色でなぞってみよう。

課題 2 右の地図の①～⑥に当てはまる自然地名を記入しよう。

①	山脈	②	山脈
③	山脈	④	川
⑤	川	⑥	半島

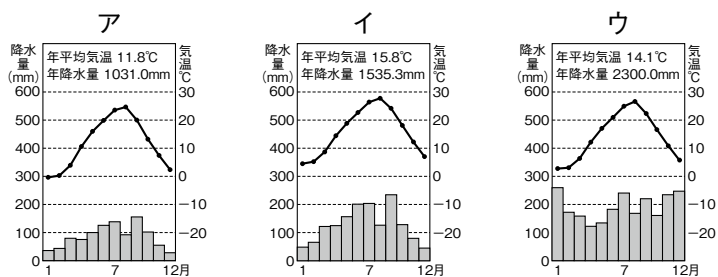
課題 3 九つの県のうち、県名と県庁所在地名が異なる県が三つあります。その県名と県庁所在地名を調べて表に記入しよう。

県 名	県庁所在地名



課題 4 右のア～ウの気温と降水量のグラフは、それぞれ名古屋・富山・松本のいずれかの地点を表しています。それぞれの都市に当てはまる雨温図の記号を選び、記入しよう。

- ・名古屋 ()
- ・富山 ()
- ・松本 ()



〔理科年表 2021年版〕より

課題 5 気温と降水量のグラフから、各都市について読みとれる特色を考えてみよう。

中部地方 ②

自動車産業と工業地域

●学習のねらい●

中京工業地帯を中心
に、どのような工業が発展
しているか、また、隣接す
る地域にどのように広がっ
ているか調べてみよう。

中京工業地帯は中部地方を代表するだけでなく、日本全体の工業や経済をリードする地域です。工業生産額（製造品出荷額等）が全国第1位の愛知県は、自動車工業のほかに繊維工業、陶磁器類の生産、鉄鋼業などでも有数の地域となっています。この地域の自動車工業は、豊田市、名古屋市、鈴鹿市などに立地し、本社の組み立て工場を中心に部品を生産する関連工場が分布しています。特に豊田市は、地域の経済自体が自動車工業の業績に大きく左右されることから「企業城下町」などとよばれ、独特の生産方式がみられます。繊維工業については、愛知県西部から岐阜県にかけての地域で毛織物工業、愛知県東部から静岡県西部

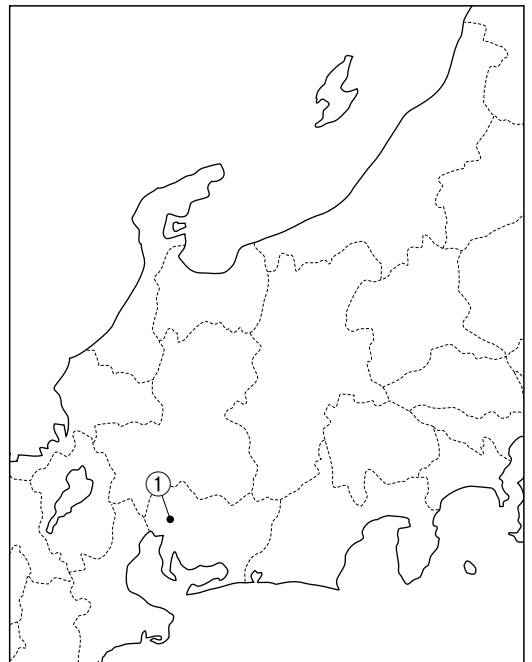
にかけては綿工業が盛んでしたが、輸入品や化学繊維工業に押され、生産は低下しています。一方で、瀬戸市や多治見市、名古屋市などでは伝統的に陶磁器の生産が盛んです。愛知県と岐阜県では、陶磁器製の食器やセラミック製の衛生陶器の生産が盛んで、全国のおよそ5割を占めています（2018年）。伊勢湾臨海部では製鉄や石油化学、その他の地域でも先端技術を生かした工業が発達しています。また、静岡県では鉄道・道路に沿って主な工業都市が分布し東海工業地域を形成しています。浜松市ではオートバイや自動車工業、富士市・富士宮市では製紙・パルプ工業が発達し、それぞれの地域を大きく成長させてきました。

課題 1 下の②～⑦の工業都市を、①の例にしたがって右の地図中に記入しよう。

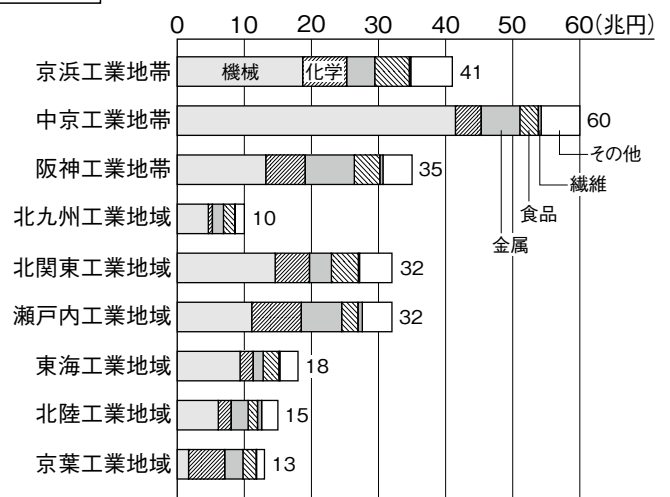
例：①名古屋（機械）

- ②東海（鉄鋼） ③瀬戸（陶磁器） ④四日市（石油化学）
⑤豊田（自動車） ⑥浜松（オートバイ） ⑦富士（製紙・パルプ）

課題 2 右下のグラフは、主な工業地帯や工業地域の産業別出荷額の割合（2018年）を示しています。中京工業地帯の特色について、気がついたことを書き出そう。



課題 3 かつて中京工業地帯を支えていた繊維工業が、現在かかえている問題点をまとめよう。



（「2018年 工業統計表」より）

中部地方 ③

東海地方・中央高地の第一次産業

●学習のねらい●

自然環境との関わりを
考えながら、それぞれの地
域の特徴的な第一次産業
をとらえ、消費者との関わ
りについて考えよう。

東海地方と中央高地の第一次産業は、それぞれ地域の自然環境の特色を生かしながら発展しています。また、道路交通網の発達^{もう}が、生産物の流通に大きく関係しています。東海地方の農業は、温暖な気候を生かした園芸農業が中心で、渥美半島の温室メロンや菊の電照栽培^{さいばい}が知られています。どちらもビニールハウスなどの施設を利用した栽培なので、施設園芸農業ともよばれます。また、静岡県の牧ノ原や三方原の台地では、茶の栽培が盛んです。その他、駿河湾沿いの丘陵^{きゅうりょう}ではみかん栽培が行われ、他の国内産地や外国産オレンジとの競争に勝ち抜くために、新しい品種を導入するなどの工夫

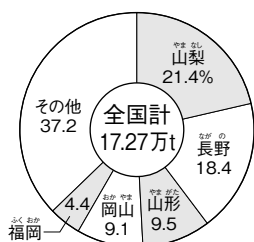
が行われています。

東海地方の農地は、明治時代以降の近代的な治水工事とともに開発され、知多半島では愛知用水、岡崎市周辺の台地では明治用水、渥美半島では豊川用水などによって、野菜や果物の栽培が盛んになりました。

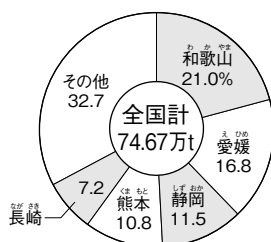
中央高地では、高原の涼しい気候を利用して、国内の他の産地と時期をずらして出荷するレタスなどの野菜や、扇状地を利用した果樹栽培が盛んで、長野県や山梨県ではりんごやぶどうが栽培されています。この地域は首都圏と高速道路で結ばれていて、果物狩りなどの観光農業とあわせて大きく発展しています。

課題 1 次のグラフ①～④はそれぞれ、茶・みかん・ぶどう・ももの県別生産量の割合（2019年）のいずれかを示しています。それぞれどの農産物か、下の（ ）に記入しよう。

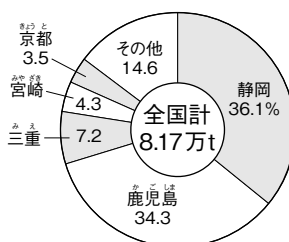
①（ ）



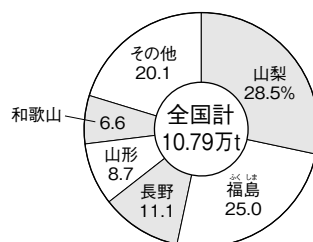
②（ ）



③（ ）



④（ ）

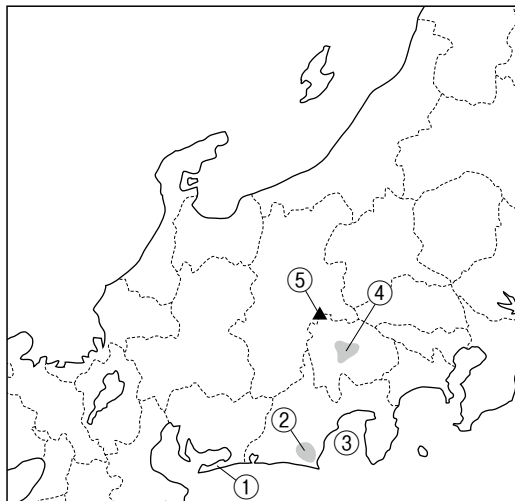


（「農林水産統計」より）

課題 2 温暖な気候の渥美半島で行われている野菜や花づくりの特色をまとめよう。

課題 3 右の地図の①～⑤の自然地名を、次の文を参考にしながら（ ）に記入しよう。また、東名高速道路を青、中央自動車道を赤で書き入れてみよう。

- ①メロンや菊の栽培が盛んな（ ）半島
- ②茶の栽培が盛んな、（ ）台地
- ③周辺の丘陵^{きゅうりょう}でみかん栽培が盛んな（ ）湾
- ④扇状地でぶどうやももを栽培する（ ）盆地
- ⑤山麓^{さんろく}の高原地域で野菜を栽培する（ ）岳



中部地方 ④

北陸地方の 伝統産業

●学習のねらい●

北陸地方で古くから盛んであった伝統産業の種類を調べよう。また、なぜ多くの伝統産業が発展したのかを考えてみよう。

北陸地方では、雪に閉ざされる長い冬の副業として発達した各地の伝統産業がよく知られています。金沢市では、かつて城下町を治めた加賀藩の政策によって、九谷焼や加賀友禅、金箔などの生産が盛んになりました。このような、各地で受け継がれた「ものづくり」の高い技術は、その後、地場産業として発展してきました。また、北陸地方は積雪量が多く、豊富な水に恵まれ、夏の間の稲作は古くから盛んに行われてきました。用水路の整備や干拓などによる水田開発が早くから進められ、越後平野や富山平野などでは大規模な稲作のみが行われる水田単作地帯が広がっています。その他、米

を原料とした米菓や日本酒などの食品工業もみられます。

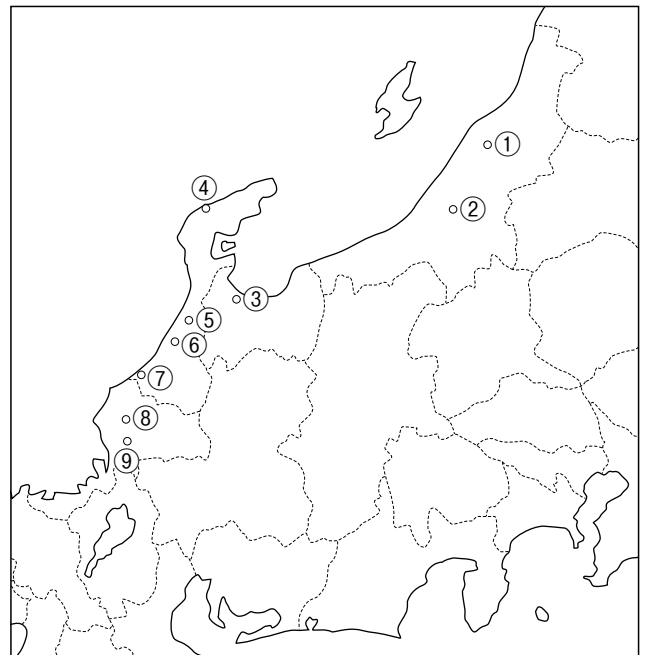
現代に受け継がれる伝統産業のほかにも、農具の伝統産業から発展した越前市の越前打刃物や燕市の洋食器、鯖江市の眼鏡フレームなどが地場産業として地域の経済を支えています。近年は、後継者不足や外国製品との競争などの諸課題にどのように向き合うか注目されています。また、豊富な水資源による電力と工業用水を利用した富山市周辺のアルミニウム産業や化学工業など、伝統産業をさらに近代化させたものや新しい産業への取り組みも盛んに行われ、伝統産業のすがたも時代に応じて変りつつあります。

課題 1 北陸地方の伝統産業や地場産業について、地図中の①～⑨に当てはまる産業名を下の語群を参考にして記入しよう。

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧
⑨	

【語群】

九谷焼 洋食器 高岡銅器 小千谷ちぢみ
加賀友禅 山中漆器 越前和紙 眼鏡フレーム
輪島塗



課題 2 伝統産業は、近年、後継者の不足や海外製品との競争などの課題を抱えていますが、金沢市の金箔製造では新しい商品の開発に取り組んでいます。どんな工夫がされているか、調べてまとめよう。

課題 3 北陸地方の稲作の特色と富山市周辺の新しい産業を調べてみよう。

稲作の特色 	新しい産業
---	---

中部地方 ⑤

中部地方の まとめ

●学習のねらい●

これまで学習してきたことを、白地図や文章にまとめよう。

近畿地方と関東地方を結ぶ位置にあり、北陸地方・中央高地・東海地方の三つの地域から成り立つ中部地方では、それぞれの地域の自然や歴史を生かした特徴ある地域の産業がみられます。日本アルプスとよばれる三つの大きな山脈はさんで、太平洋側と日本海側に多くの河川が流れ、その水や異なる気候の特色を利用した農業・工業が発達してきました。

東海地方では中京工業地帯や東海工業地域、大消費地向けの園芸農業や焼津港などの水産物加工による食品工業、中央高地では気候を利用した高原野菜の生産や美しい自然景観を生かした観光業、

北陸地方では水田単作による稲作や伝統的な地場産業などが発達してきました。

これらの地域は、高速道路や鉄道によって大都市と結ばれ、農産物は大消費地へと運ばれています。また、自動車に代表される工業製品は日本の重要な輸出品となっています。近年では、都市の人々が農業を体験するグリーンツーリズムが新しい観光のあり方として、また、都市と農村の交流のあり方として注目されています。

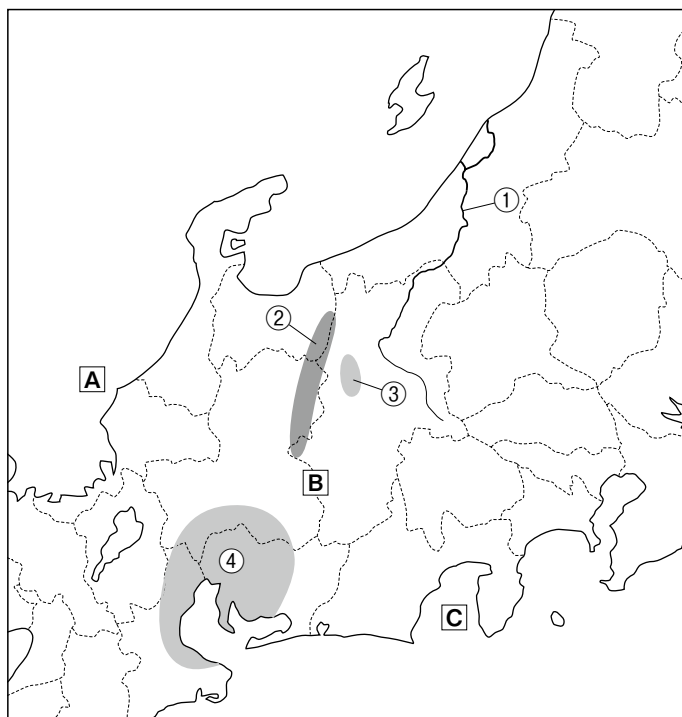
一方、各地の産業は、景気の低迷による売り上げの落ち込みや外国の輸入製品との競争、後継者の不足などの課題を抱えています。

課題 1 右の地図の①～④に当てはまる地名を次の欄に記入しよう。

①	川
②	山脈
③	盆地
④	工業地帯

課題 2 右の地図のA・B・Cは中部地方の三つの地域です。その地域名を次の（ ）に記入しよう。

- ・冬は雪に閉ざされる期間が長い(A)地方
- ・盆地や高原の広がる(B)
- ・黒潮の影響で温暖な(C)地方



課題 3 中部地方の特色をまとめた次の文章の①～⑩に当てはまる言葉を、下の欄に記入しよう。

中京工業地帯は（①）工業の発展によって、日本経済をリードしています。中京工業地帯の特徴としては（①）に代表される機械工業の本社工場や関連工場が集中していることがあげられます。また、伊勢湾岸には（②）や石油化学工業がみられ、陶磁器の産地である瀬戸市では（③）の生産への転換が進んでいます。

中部地方の農業は、気候の特色を生かして発展しました。温暖な渥美半島では温室メロンや（④）の電照栽培、牧ノ原などの台地では（⑤）の栽培、松本盆地や甲府盆地ではりんごや（⑥）、ももの栽培、八ヶ岳山麓の高原などではレタスなどの（⑦）の栽培が盛んです。

北陸地方は米の（⑧）地帯が広がっていて、冬の副業から発展した、輪島市の漆器や高岡市の銅器といった、（⑨）が盛んです。また、豊富な水資源を利用した近代工業も発達し、富山市周辺では（⑩）加工や化学工業がみられます。

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩